

zoom セミナー

第 16 回市民講座のご案内

臓器移植法を問い直す市民ネットワークでは、市民講座を一年に 2 度、開催してきました。本年はコロナ禍で非常事態宣言が出され、6 月に予定していた市民講座をやむなく延期しました。残念ながら現在も感染状況は収まらず、今年度の市民講座はウェブセミナーとすることに致しました。

講師は鳥取大学医学部准教授の安藤泰至さん。安藤泰至さんは 2019 年に『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』（岩波ブックレット）を上梓され、同年 6 月に放送された NHK スペシャル「彼女は安楽死を選んだ」への批判論考も各誌で展開されました。また本年 7 月に報道された ALS 患者嘱託殺人事件でも多くのマスメディアにコメントを発出されています。

今回のセミナーではこれらの事件に触れつつ、「尊厳死」「安楽死」「脳死臓器移植」など、死を巡る現代医療のシステムとからくりをわかりやすくお話して頂きます。

■日時：2020 年 9 月 26 日（土）14 時～16 時

■講師：安藤泰至さん

（鳥取大学医学部保健学科准教授／宗教学・生命倫理・死生学）

●講演タイトル：「いのちが軽くなる」ということ

—生命操作と「死」の選択をめぐって—

【講師プロフィール】1961 年生。京都大学大学院文学研究科(宗教学)博士後期課程 2 年終了。

著書に『いのちの思想』を掘り起こす—生命倫理の再生に向けて(編著 岩波書店)、シリーズ生命倫理学 4 終末期医療(高橋都との共編著 丸善出版)、『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』(岩波ブックレット)など。

●参加申し込み お名前、所属、e-mail アドレスを abdcnet@gmail.com まで連絡下さい。
〆切は 9 月 23 日（水）、定員 100 名までです。



【講演概要】（講師より）

7 月末、ALS を患う女性の求めによる嘱託殺人容疑で医師二人が逮捕された事件が報じられ、昨年安楽死についての小著を出した私も、さまざまところでコメントを求められました。8 月初めには、私も議論と執筆に加わった日本学術会議の提言「人の生殖にゲノム編集技術を用いることの倫理的正当性について」が発出されました。コロナ禍のなかでの二つの出来事は一見関係がないように見えますが、そこに「いのちの選別」や「優生思想」という補助線を引いてみることで、たちまちそのつながりが見えてきます。「生命操作」という言葉は、どちらかという先端技術による出産・誕生をめぐる人為的介入を連想させますが、私は現代医療における生命操作のシステムでは、一見正反対に見える「死なせないベクトル（不死へのベクトル）」と「死なせるベクトル」が一体となっていると考えています。安楽死や尊厳死、そして脳死臓器移植をめぐる「よい死」の物語もまた、こうした生命操作システムの一部です。この講演では、社会に張り巡らされたこのシステムの網の目が、私たちが本当の意味で「いのち」に向き合うことを妨げていることについて、みなさんと共に考えたいと思います

臓器移植法を問い直す市民ネットワーク

携帯：080(6532)0916 e-mail：abdcnet@gmail.com ブログ：<http://blog.goo.ne.jp/abdcnet>